

報道関係者各位

**PillCam® COLON、潰瘍性大腸炎検査における
ゴールドスタンダードの大腸内視鏡検査と同等の精度であることを実証
－活動性潰瘍性大腸炎は結腸直腸癌のリスク要因－**

オーストリア ウィーン、2008年10月20日：ギブン・イメージング社(NASDAQ: GIVN)は本日、オーストリアのウィーンで2008年10月18日－22日に開かれた第16回欧州消化器病週間(UEGW)2008会議において発表された研究の中間結果で、大腸用カプセル内視鏡 PillCam® COLON が、活動性潰瘍性大腸炎(UC)の発見において大腸内視鏡検査と同等の精度であったことが発表されました。活動性潰瘍性大腸炎は結腸直腸異形成症および結腸直腸癌のリスクを高めるため、定期的な検査が必須となります。⁽¹⁾

香港中文大学の J.J.Y.サン医師は次のように述べています。「潰瘍性大腸炎患者は、患者に優しい PillCam® COLON による検査のほうを望むでしょう。結腸直腸癌(CRC)の発症を最小限に抑えるためのあらゆる手段が非常に重要です。なぜなら、結腸直腸癌は西欧諸国⁽²⁾において癌死の第2位の原因であり、なおかつ最も予防可能な癌の一つ⁽³⁾だからです。」

42名の患者を対象としたこの中間解析では、従来の光学大腸内視鏡と比較して、炎症性病変および潰瘍性大腸炎の発見における PillCam® COLON カプセル内視鏡の精度が評価されました。対象患者の年齢範囲は18歳から70歳で、すでに光学大腸内視鏡検査を受けて、炎症性病変あるいは他の結腸疾患が疑われた、または発見された患者です。患者は従来の大腸検査の前処置(PEG)を受け、朝にカプセル内視鏡を嚥下したあと、大腸の洗浄と蠕動運動を促進しカプセルを進めるために、さらに下剤を服用しました。カプセルが体内から排出された後、光学大腸内視鏡検査が行われました。大腸内視鏡検査を行った医師と、PillCam® カプセル内視鏡から得られた結果を解析した医師は、互いのデータを知ることができないようになっていました。

潰瘍性大腸炎について

潰瘍性大腸炎は慢性疾患で、多くは下痢や腹痛といった症状を伴います。大腸上皮での炎症が特徴です。食欲減退、体重減少、疲労などが見られ、患者には、数ヵ月あるいは数年の期間の寛解期を伴って散発的に症状が現れます。⁽⁴⁾

ギブン・イメージング社について

ギブン・イメージング社は、消化管疾患を発見するための、革新的で患者様に優しい製品を開発、製造、販売することで、消化管の診断に新たな定義をもたらしています。ギブン・イメージング社のテクノロジープラットフォームは、カプセルの中に小さなカメラを装着し、患者様が嚥下する使い捨ての PillCam[®] カプセル内視鏡と、データレコーダ、RAPID[®] ソフトウェアからなります。ギブン・イメージング社では、数種類のカプセル内視鏡を販売しており、アメリカをはじめ 60 カ国以上で発売されており、これまで世界で 75 万以上の患者様が PillCam[®] カプセル内視鏡検査を受診しています。ギブン・イメージング社が販売するカプセル内視鏡には、小腸全体を検査することができる小腸用カプセル内視鏡「PillCam[®] SB」の他、食道用カプセル内視鏡「PillCam[®] ESO」、大腸用カプセル内視鏡「PillCam[®] COLON」、そして PillCam[®] カプセル内視鏡が消化管を通過できるかどうか開通性をみるための「Agile™ Patency カプセル」があります。PillCam[®] COLON は、欧州では CE マークを取得し販売されていますが、アメリカではまだ販売にいたっておりません。ギブン・イメージング社の本社、工場、研究開発施設は、イスラエルのヨクナムにあり、アメリカ、ドイツ、フランス、日本、オーストラリア、シンガポールに子会社があります。

ギブン・イメージング社の大株主は、Elron Electronic Industries (NASDAQ & TASE: ELRN)です。さらに詳しい情報が知りたい方はこちらをご覧ください。http://www.givenimaging.com.

今後の見通し

このプレスリリースは、米国の 1995 年民間有価証券訴訟改革法の免責条項内での見通しを含んでいます。これらの見通しは、私たちのビジネス、将来の収益、経費、収益性に関する予測などが含まれますが、これらの予測に限りません。見通しは、「可能性がある」「予期する」「見積もる」「期待する」「意図する」「予定する」「確信する」といった将来を示唆する用語を伴いますが、必ずしもそうでない場合もあります。見通しは、既知および未知のリスクと不確実性および、出来事、結果、業績、状況または企業の達成事項を引き起こす可能性のある他の要因を含みますが、見通しで述べられた将来の出来事、結果、業績、状況または達成事項は著しく異なることがあります。見通しとは異なる出来事、結果、業績、状況と達成を引き起こす要因としては、下記を含みますが、下記に限りません。(1) 新製品を開発し、市場に投入する能力(2)規制当局の認可、弊社製品の販売許可、または規制環境の変化に対応できる当社の能力 (3) 当社の販売、マーケティング、生産計画の成功 (4) 特許および他の知的財産権の保護と有効性 (5) 為替レートの影響 (6) 競合他社の影響 (7) 重大な訴訟結果(8) 私たちの製品に対して政府および商業的保険者から保険収載を得る当社の能力 (9) 四半期の業績の変動 (10) イスラエルにおける武力衝突または市民または軍による騒乱 (11) 米国証券取引委員会に提出され公開されている他のリスクと要因は、Form 20-F で提出した 2007 年 12 月 31 日に終了した年次報告書に掲載されている Risk Factors (リスク要因)、Cautionary Language Regarding Forward Looking Statements (将来の業績に関する見通しの注意事項)、Operating Results and Financial Review and Prospects (営業成績と財務概況と見込み) の表題で記載されていますが、これらに記載されているリスクと要因に限りません。このプレスリリースに含まれる見通しはプレスリリースの日付時点のものであり、過度に信用を置かないようにしてください。関連する証券取引法に基づき重要情報を公開する義務以外は、企業には見通しの変更や、出来事、予期せぬ出来事の発生を公表する義務はありません。

(1) <http://www.emedicine.com/Med/topic2336.htm>

(2) <http://www.lavoisier.fr/notice/gb608467.html>

(3) <http://www.hmc.psu.edu/healthinfo/c/colon.htm>

(4) <http://www.cdfa.org/info/about/ucp>

###

注) 日本では、PillCam[®] SB カプセル内視鏡(小腸用)のみ、承認、販売されています。また国により適応が異なっています。